

平成25年10月1日

国土交通大臣 太田 昭宏 様
九州地方整備局長 岩崎 泰彦 様
立野ダム工事事務所長 島本 卓三 様

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島 康
ダムによらない治水・利水を考える県議の会 代表 平野みどり
連絡先 熊本市西区島崎4丁目5-13 中島康
電話 090-2505-3880 FAX 096-354-2966

立野ダム事業の放流孔の閉塞、堆砂に関する 公開質問状

立野ダム事業は多くの問題点を抱えており、国土交通省は住民向けのダム説明会さえ開催できず、説明責任を全く果たせていない状況です。今回は立野ダム事業の「放流孔の閉塞」と「堆砂」に絞った公開質問を致します。住民が納得できる回答をされることを要請します。

球磨川の荒瀬ダムは、洪水時に流木などを引っかかりにくくするために、建設工事中に水門（ゲート）の間隔を当初の10mから15mに広げています。洪水調節専用の「穴あきダム」である立野ダムにはゲートがない代わりに、ダムの下部に一辺が5mの3つの穴（放流孔）が空いています。洪水時の白川を見ると、大量の流木がひっきりなしに流れています。この一辺が5mの3つの穴（放流孔）が流木等でふさがると、立野ダムはたちまち洪水調節不能の危険な状態となります。

国土交通省は流木対策として、放流孔呑口部にスクリーンの設置を計画しています（詳細別紙）。しかし、スクリーンを設置すれば洪水時にスクリーンに流木等がはりつき、一辺が5mの3つの穴（放流孔）はたちまちふさがることが容易に想像できます。国土交通省は地元議員に対する現地説明で、「ダムの水位が上がれば流木は浮いて穴（放流孔）はふさがらない」などと説明していますが、流木の浮力よりも穴（放流孔）が流木を吸い込む力の方がはるかに大きいのは明らかです。

さらなる安全対策として、国土交通省は立野ダム建設予定地上流に、流木等を捕捉できる施設として高さ5mのスリットダムの設置を計画しています（詳細別紙）。しかし、ダム湖の水位が高さ5mのスリットダムを超えた時は、大量の流木がスリットダムを乗り越え、一辺が5mの放流孔呑口部のスクリーンに押し寄せることが容易に想像できます。

また、国土交通省は立野ダムの堆砂について「洪水時に流水とともにダム上流から流入した土砂は、貯水位の上昇とともに一時的にダム湖内に堆積するが、その後、貯水位の低下とともにダム湖内に一時的に堆積した土砂はダム下流へ流下する」と説明しています。洪水時の白川の水は多くの火山灰とともに、多量の岩石や流木等を含みます。流木や岩石が放流孔呑口部のスクリーンや高さ5mのスリットダムをふさげば、「ダム湖内に一時的に堆積した土砂はダム下流へ流下する」ことはあり得ません。

球磨川では河川整備基本方針策定時に、国土交通省は「川づくり報告会」と題する説明会を流域など53カ所で開催しました。白川では昨年まで「立野ダム事業の検証に係る検討」が行われたにもかかわらず、住民に向けた説明会は一度も開催されていません。また、

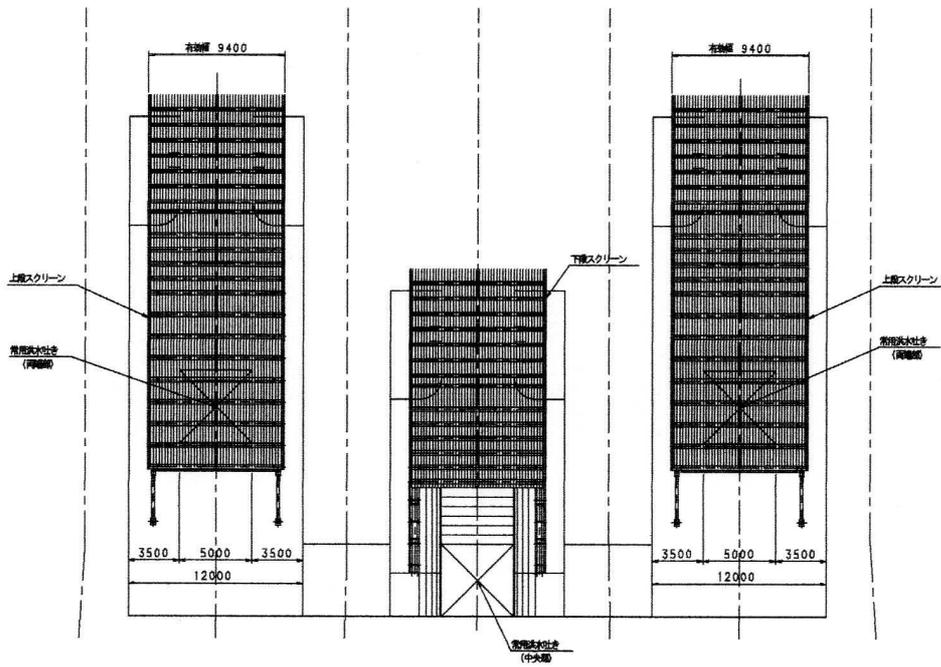
現在国土交通省がホームページで示している説明資料では私たち住民は全く納得できません。

そこで、以下3点について公開質問します。10月18日までに文書でのご回答をお願いします。

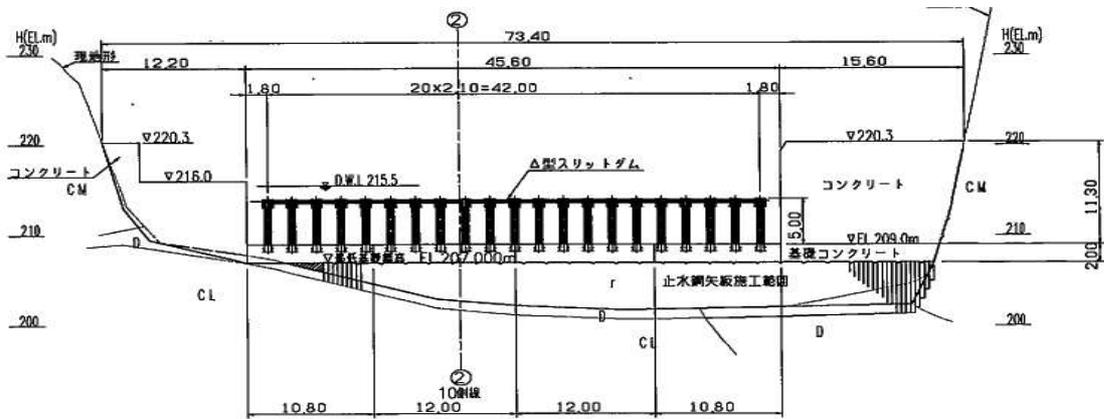
記

1. 放流孔呑口部のスクリーンや高さ5mのスリットダムが流木等でふさがらないという根拠
2. 洪水時には、流水とともにダム上流から流入した土砂は、貯水位の上昇とともに一時的にダム湖内に堆積するが、その後、貯水位の低下とともにダム湖内に一時的に堆積した土砂はダム下流へ流下するとする根拠
3. 転流工（仮排水路トンネル工事）に着工する前に、白川流域の市町村ごと、もしくは校区ごとに立野ダムに関する説明会を開催すること。説明会においては住民の質問や意見を十分に聞くこと。

以上



スクリーン縦断面図



スリットダム縦断面図



スリットダム横断面図